

第1学年 総合的な学習学習指導案

1. 主題名 障害者理解を通して、より良い社会について考えよう
2. ねらい ①一小一中の環境で固定された人間関係から視野を広げさせることで、自分とは置かれた環境や考えなどが異なる人を受け入れ、その人の立場になって考えられるようにする。
②他者を気遣い、思いやる気持ちをもつことは、豊かな人間関係を築くことにつながり、人権が尊重される社会の実現の礎であることに気付かせる。
3. 資料名 『見えないを生きる』（ビデオ）

4. 主題設定の理由

本校では、6年前から福祉教育の一環として、1年生で視覚障害者の方の講演会と交流体験、2年生で聴覚障害者理解と手話教室を行っている。コロナ禍でいったん中止していたこの取組、今年度再開することができた。

本学級は、男子11名、女子14名、内特別支援学級生が3名、外国籍生徒が1名在籍する。大変明るく元気で、夢や目標をもって意欲的に学ぼうとする生徒が多い。しかし、小学校の頃から変わらない人間関係の中で過ごしているため、思ったことをそのまま発言したり、他者に対して心無い言葉を投げかけたりするなど、周囲への気遣いができず、他者の個性や立場を尊重して関わることができない場面も見受けられる。

そんな生徒たちに、アイマスク体験をすることで自分自身が視覚障害者の立場を実際に体験すると同時にサポートすることで何が必要か感じ取らせたい。さらに、視覚障害者になられた酒井先生の体験を聴き、給食や掃除に時間を一緒に過ごすことで障害者と共に過ごすうえで必要なことを考えさせたい。そして、様々な立場の人を気遣い、思いやる気持ちをもつことは、豊かな人間関係を築くことにつながり、それが将来、人権が尊重される社会の実現につながっていくということを気付かせたい。

5. 指導計画（全6時間）

- 第1次 道徳 『私の話を聞いてね』内容項目：【相互理解、寛容】（1時間）
- 第2次 道徳 『父の言葉』内容項目：【思いやり、感謝】（1時間）
- 第3次 ビデオ学習『見えないを生きる』（1時間）
- 第4次 アイマスク体験（1時間）
- 第5次 酒井雅和先生の講演（1時間）
- 第6次 障害者理解を通して、より良い社会について考えよう（1時間）

※酒井雅和先生

丹波篠山市在住、元中学校教員

40歳台に病気がもとで失明される。絶望の中で死を考えられたこともあったが、京都のライトハウスでリハビリをされ、その後丹波篠山市や丹波市の小中学校で体験を講演しながら、啓発活動を行っておられる。

6. 本時の展開（第6時／全1時間）

(1) 目標 障害者理解を通して、より良い社会について考えよう

(2) 展開

学習活動	指導の留意点										
<p>○ 実際に酒井さんに会って話を聞いて感じたことや交流した時のことを出し合う。</p> <p>①会うまでに思っていた障害者に対するイメージの違いはありましたか。 (例)</p> <table border="1" data-bbox="151 685 815 1025"> <thead> <tr> <th data-bbox="151 685 512 734">会う前</th> <th data-bbox="512 685 815 734">会った後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="151 734 512 1025"> <ul style="list-style-type: none"> ・暗いイメージ ・楽しみがない ・どう関わっていいかわからない ・できたら関わりたくない </td> <td data-bbox="512 734 815 1025"> <ul style="list-style-type: none"> 前向きに人生を楽しんでいる 積極的にサポートをすることは大事 </td> </tr> </tbody> </table> <p>②酒井さんに会ったり、アイマスク体験をしたりする中で、もっとこうなれば良いのと思うことはありますか。 (例) ・社会に対して ・施設等の設備に対して</p> <p>③人権課題に対して、どんなイメージを抱いていますか。解決の方法は何だろう。 (例)</p> <table border="1" data-bbox="197 1529 809 1727"> <thead> <tr> <th data-bbox="197 1529 405 1628">差別や課題</th> <th data-bbox="405 1529 612 1628">抱いているイメージ</th> <th data-bbox="612 1529 809 1628">解決の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="197 1628 405 1727">(例) 外国人問題</td> <td data-bbox="405 1628 612 1727">怖い 話せない</td> <td data-bbox="612 1628 809 1727">翻訳機を使ってみる</td> </tr> </tbody> </table> <p>④差別を受けていたり、課題を抱えていたりする人たちが暮らしやすい社会にするには、私たちがどうすることが大切だろう。</p>	会う前	会った後	<ul style="list-style-type: none"> ・暗いイメージ ・楽しみがない ・どう関わっていいかわからない ・できたら関わりたくない 	<ul style="list-style-type: none"> 前向きに人生を楽しんでいる 積極的にサポートをすることは大事 	差別や課題	抱いているイメージ	解決の方法	(例) 外国人問題	怖い 話せない	翻訳機を使ってみる	<p>・ワークシートを見ながら、前時の学習を思い出させる。</p> <p>・酒井先生に会う前と会った後とのイメージを比較できる板書にする。</p> <p>・私たちの考え方や、公共の場の施設等、様々な観点から考えさせる。</p> <p>・生徒が課題だと感じることを出させるが、難しければ教師が具体例を提示する。</p> <p>・これまでの道徳やアイマスク体験、酒井さんの講話を通して、気付いたことを考えさせる。</p>
会う前	会った後										
<ul style="list-style-type: none"> ・暗いイメージ ・楽しみがない ・どう関わっていいかわからない ・できたら関わりたくない 	<ul style="list-style-type: none"> 前向きに人生を楽しんでいる 積極的にサポートをすることは大事 										
差別や課題	抱いているイメージ	解決の方法									
(例) 外国人問題	怖い 話せない	翻訳機を使ってみる									

アイマスク体験の感想

- ・私は、目が見えない人は大変だと思っていたけど、ここまで大変だとは思っていませんでした。ご飯を食べる時もお風呂の時も手探りだから、すごく大変だと思いました。
- ・私は知っている場所でも怖かったけど、途中から目が見えなくなった人はもっと怖いと思うし、死のうと思ったと言っていた人の気持ちが分かった。
- ・体験してみて、「こっち」って言われてもどこか分からないし、「右」って言われてもどこから見て右か分からないから、大変な思いをしているんだと分かりました。
- ・いつもならとても簡単なことでも、アイマスクをつけるとどこに何があるのか全く分からなくて、とても難しく感じました。この感覚がずっと続くのは怖いと思いました。
- ・誘導する人がいたら安心して歩くことができるけど、たぶん一人で歩くことになったら不安になって怖いと思いました。困っている人がいたら、勇気を出して声をかけることが大切だと分かりました。
- ・体験してみて、視覚障害者は何も見えず、不安で怖い毎日を送っていると分かりました。今まで私たちは当たり前のように自分の目で確かめて暮らしているけれど、世界には生まれた時から目が見えない人や途中から見えなくなった人など、見えることがあたりまえでない人もいると分かったので、これから少しでもそういった障害者の役に立てるようにしていきたいと思いました。

酒井さんの講演を聞いた感想

- ・酒井さんに会って、目の不自由な人は大変だと思いました。自分にとって目が見えないことは身近ではないけど、これから生きていくうえで酒井さんのような人に会ったときにどうするとかの心の準備はとても必要だと思いました。酒井さんに会う前は、迷惑とか不快にってしまったらどうしようとかの不安があったけど、酒井さんが優しく冷静に話してくれたので良かったです。
- ・目が見えなくなると日常生活でできていたことが難しくなるけど、酒井先生は一生懸命訓練しているところがすごいと思いました。もし目が見えない人がいたら見て見ぬふりをせずに、自分から「大丈夫ですか」「何かしましょうか」などの声をかけて、助けることがすごく大切だと分かりました。
- ・暗いお話なのかなと勝手に考えていたけど、とても明るくて私たちが元気になれるような話ばかりだなと感じました。本当はとても苦勞されているからこそできる話なのかなと思います。視覚を失うと、「言葉」がとても大事になって、発言するときの言葉選びが大切だなと思いました。白杖を持っている人がいたら声をかけたいと思います。
- ・失明すると、音やにおいで判断しないといけないし、言葉をしっかり聞いて判断しないといけないので、とても大変だと思いました。指示をするときに「こっち、あっち」では分からないから、どんな言葉で伝えたらよいかしっかり考えたいと思いました。

学習全体を通しての感想

- ・私は今まで障害者になった人は「かわいそう」と思っていたし、そうなったことを引きずっていると思っていたけど、明るい人もいれば前に進もうとしている人もいるということが分かりました。そして、声をかける人や、知識をもっている人が多くなったら、障害がある人も楽しく暮らせると思いました。だから、私は、障害者を放っておくのではなく、輪の中に入れたいと思いました。
- ・酒井さんのように、障害になってしまっても、新しいことにも恐れずにチャレンジしている人がいると

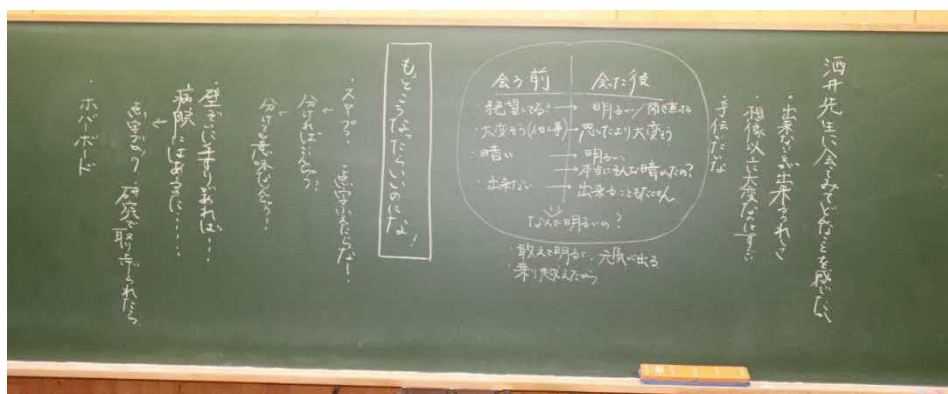
ということが分かりました。そして、そんなチャレンジをしている人のことを笑ってバカにすることは失礼なことだと思うから、うまくいかなかったとしても応援したいと思いました。

- ・障害者の人たちは自分なりにたくてなったわけではないから、その人たちがこの世の中で安心して過ごせるように、僕たちのサポートが必要不可欠だと、改めて分かりました。

- ・アイマスク体験で、サポートする人はすごく大変だと感じました。障害者が暮らしやすいように、一人ひとりが考えることが大切だと思います。

- ・これまで、「障害がある人＝暗い、ネガティブ、生きがいがいい」みたいなイメージをもっていたけど、酒井さんに会って、障害のある人でも前向きに頑張ろうと、ポジティブに生きている姿に感動しました。酒井さんのおかげで、障害がある人、ない人関係なく、みんなが楽しく生活が送れるようになったらいいなと思いました。

- ・人権学習は難しいけど、世の中にはいろんな個性をもった人がいるから、障害者の学習だけでなく、ほかの人権に対する学習もしたいです。



アイマスク体験
白杖を持って歩く人
サポートする人

酒井先生への
生活サポート体験

